

小・中学校9年間の
学びと育ちを支える小中連携教育



三朝町教育委員会

令和4年5月

目 次

I. 三朝町における小中連携検討の背景	· · · · P.2
1 小中連携の取組の背景	
2 三朝小・中学校の現状と課題	
(1) 三朝町教育研究会の組織解体による課題	
(2) 三朝町児童生徒の現状	
①児童生徒の推移から	
②学力調査の結果から	
③配慮を要する児童生徒への支援の側面から	
II. 三朝町における小中連携の方向性	· · · · P.6
1 小中連携で期待される教育効果	
2 三朝町の小中連携の在り方	
3 町内各園と小中学校の連携・接続について	
III. 三朝町における小中連携教育	· · · · P.8
(1) 知〔確かな学び〕	
(2) 徳〔豊かな心〕	
(3) 体〔健やかな体〕	
(4) 誇り〔ふるさと愛〕	
参考資料	
・三朝町小中連携構想イメージ	· · · · P.16
・ふるさとキャリア教育実施計画	
・情報活用能力カリキュラム	
・MISASA English Shower Program	

I. 三朝町における小中連携検討の背景

1 小中連携の取組の背景

現在の社会は、変化が激しく将来を見通しにくい社会であると言われています。今の子どもたちが成人して、社会で活躍する頃には、社会構造や雇用環境は大きく変化し、職業の在り方についても、現在の社会とは様変わりすることになると指摘する研究者もいます。

こうした社会を子どもたちが力強く生き抜いていくためには、一人ひとりが大切にされ、安心して学ぶ中で力を伸ばすことが重要です。子どもたちが多様な他者と協働しながら新たな価値を創造し、将来の予測が難しい社会でも、未来を創り出していく力を獲得することを期待するところです。

令和2年度から小学校で完全実施となった新学習指導要領では、基本方針に「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る」という目標を、学校と社会が共有し、連携・協働しながら、新しい時代に求められる力を子どもたちに育むことが掲げられています。そのためには、教育の在り方も一層の進化を遂げなければなりません。加えて令和元年12月の文部科学省初等中等教育分科会『新しい時代の初等中等教育の在り方（論点取りまとめ）』では、子どもたち一人ひとりに個別最適化され、創造性を育む教育を実現するためにICT環境を整備することが示されました。タブレット端末の1人1台環境は、令和時代における学校の「スタンダード」であり、特別なことではなく、過去の教育実践の蓄積の上に、最先端のICT活用教育を取り入れ、これまでの教育実践とICT活

用教育とのベストミックスを図っていくことにより、学校教育の劇的な変化を求めるものです。この新たな教育の技術革新は、多様な子どもたちを誰一人取り残すことのない公正に個別最適化された学びや創造性を育む学びにも寄与するものであり、特別な支援が必要な子どもたちの可能性も大きく広げるものです。

子どもたちが身に付けるべき資質や能力の確実な定着を図るために、小中連携教育を核とした「縦の接続」と、地域や保護者との



協働の「横の連携」がより一層必要であると考えるに至りました。

2 三朝小・中学校の現状と課題

(1) 統合後的小中連携における課題

平成31年4月、町内3つの小学校が統合し、新たに三朝町立三朝小学校が開校し、町内1小1中の学校構成となりました。このことにより、小中相互の教職員の意思疎通がスムーズになり、連携を深めながら教育活動を推進していくことが期待されました。



ところで本町では、平成17年度より三朝町教育研究会が組織され、子どもたちが希望と喜びを持った就学・進学をするため、保育園、小学校、中学校及び行政が連絡・協議・調整を図りながら相互の密接な連携を深め、三朝町教育の充実・向上を図ってきました。

しかしながら、三朝町教育研究会が平成31年の小学校統合を機に組織解体となつたことから、担当者同士の連携が不十分となり、いじめや不登校などの生徒指導上の対応や就学指導において、

情報共有ができていなかつたり、移行支援が十分に果たされなかつたりという課題も出てきました。

そこで、各校の生徒指導担当者や通級指導教室担当者による月1回の担当者会を実施したり、特別支援教育担当者の研修を年2回実施したりしながら、必要に応じて協議の場を設けて教育課題の解決を図つてきているところです。また、令和3年度から2年間、『鳥取県ICT活用教育推進地域』の指定を受けて、各教科におけるICTを活用した先進的な取組を進めており、小中合同の研修会を実施したり、授業研究会に教職員を相互派遣したりするなど、共通認識を持ちながら学びの改革を進め、1小1中の強みを生かした特色ある教育を展開しています。

(2) 三朝町児童生徒の現状

①児童生徒数の推移から

令和3年5月現在、本町の小学校の児童数は291人、中学校の生徒数は167人、児童生徒数の合計は458人となっています。小中学校とも各学年2学級の編成を行い、児童生徒が多様な意見を交換し、解決方法や考えを練り上げる活発な授業風景が見られます。しかしながら、今後の児童生徒数は、少子化による出生数の減少により、令和7



年度から学級数の減少が始まり、令和17年度頃には小中とも各学年1クラス^{*1}となる見通しとなっています。少子化の進行や地域コミュニティの弱体化、核家族化の進行により児童生徒の人間関係が固定化しやすい中、小中連携、一貫教育の実施により、児童生徒が多様な教職員や児童生徒と関わる機会を増やすこと、中学生が小学生と触れ合うことで、上級生であることを自覚し自尊感情を高めること、小学生にとっては、中学生の姿が生き方のモデルとなることなどが期待できます。

*1 県学級編制基準で令和7年度までに順次小学校6年生までが30人学級となった場合の想定

②学力調査の結果から

近年の全国学力・学習状況調査の結果は表1のとおりとなっています（括弧内は全国平均）。令和3年度の結果を見ると、小中学校とも概ね全国平均を上回る結果となっています。国語の言語事項や算数・数学の計算の処理など、基本的な事項は確実に定着ができていると言えます。

表1 全国学力・学習状況調査結果（令和元年度～3年度）

三朝小	国語	算数	三朝中	国語	数学	英語
令和元年度	61 (63.8)	63 (66.6)	令和元年度	79 (72.8)	66 (59.8)	60 (56.0)
令和2年度	68	76	令和2年度	77	60	実施なし
令和3年度	65 (64.7)	72 (70.2)	令和3年度	68 (64.6)	63 (57.2)	実施なし

※令和2年度は新型コロナウイルス感染症の拡大により全国的な調査が中止となったため、全国平均が示されていません。

しかしながら、結果を観点別又は領域別に分析すると、各教科における課題が見えてきます。国語においては「読解力」と「記述力」、算数・数学においては「データ活用力」と「資料の活用」に課題があり、この課題が小学校と中学校に共通したものとなっています。小学校で苦手意識を抱えた児童が、中学校でもその課題を克服することができないままとなっている姿が浮き上がってきます。学習面における課題を解決するためには、小中合同でめざす子ども像と授業像を共有し、指導方法や指導体制を改善していくかなければなりません。令和3年度より、授業研究会への相互派遣を実施しているところですが、今後、さらに計画的かつ継続的に授業研究会を実施していかなければならないと考えています。



③配慮を要する児童生徒への支援の側面から



本町では特別支援教育を学校経営の柱の一つとして、特別支援教育支援員を配置するなど個別最適な学習環境と具体的支援の提供を目指してきました。保護者の特別支援教育への理解も徐々に深まり、現在は特別支援学級在籍児童生徒数が全体の1割を超えていました。しかしながら、小学校から中学校への移行がスムーズにいかず、不適応状態にある生徒がいるのも現状です。

9年間の学びと育ちのつながりを重視した小中一貫教育を念頭に置いて小中連携を行っていくためには、学力の向上や学校制度の違いという外的要因により起こる不登校やいじめなど様々な問題を解消する効果的なカリキュラムなどを編成していくなど、三朝町の小中連携のあり方を整えていくことが急務となっています。

II. 三朝町における小中連携の方向性

1 小中連携で期待される教育効果

中央教育審議会の小中一貫教育特別部会（平成24年9月）において、小中連携及び小中一貫教育で期待される効果について広く周知されていますが、本町においては、特に、次の点において効果を期待しています。

- 小学校から中学校への進学という、新しい環境での学習や生活へ移行する段階において、レジリエンス^{*2}の弱体化から不登校などの生徒指導上の諸問題につながっていく事態などがあり、小学校から中学校への接続を円滑化する必要性がある。児童生徒の発達が早まっていることを踏まえ、小学校高学年から中学校入学後までの期間に着目し、当該期間に重点的な取り組みを行うことが重要と考えられる。連携の目的を明確化するとともに関係者で情報を共有し、学校全体で組織的に取り組むことで、生徒の暴力行為や不登校、いじめのない学校づくりにつなげていくことが期待される。

* 2 「困難な状況にもかかわらず、しなやかに適応して生きる力」のこと

- 小学校の教員は全教科を教えるのに対し、中学校の教員は特定の教科を指導することや、小・中学校では、対象とする児童生徒の発達の段階が異なることから、学習指導、生徒指導の方法が異なるといったこともあり、小・中学校の教職員の職務の性質は異なっている。小・中学校教職員間の職務性質の違いを教職員同士が認識し互いに学び合うことで、教科横断的な視点に加えて、小・中学校の接続部分にも目を向け、9年間を見据えた学びの積み上げにおける学力向上の効果が期待できる。
- 本町の特色ある教育である国際理解教育、英語教育、ＩＣＴ活用教育について、9年間を見通したカリキュラムを作成することで、児童生徒が自校やふるさと三朝町への誇りを持ち、自分の夢に向かって、生き生きとたくましく成長することが期待できる。

2 三朝町の小中連携の在り方

小中連携において児童生徒に対する教育を施す上で、教職員が小中9年間にわたって教育を見通し、学校が直面している課題の解決に資するとともに、学校教育の質的向上を図っていくことが必要です。

三朝町で育ったことに誇りをもち、やさしくた



くましいみささっ子を育てるため、9年間を見通した連続性と系統性のある教育の在り方を検討し、確かな学力の向上と豊かな情操の育成を図っていかなければなりません。

そこで、小中連携教育の柱として「知・徳・体・誇り」の4つで、それぞれの努力目標及び具体的な施策を示すこととしました。

3 町内各園と小中学校の連携・接続について

本町においては、令和3年に「園・小学校の連携・接続体制の構築と取組」を策定し、連携・接続体制における職員の相互理解を図るとともに、園から小学校への円滑な移行を進めています。年間計画に基づく園と学校との交流やスタートカリキュラムとアプローチカリキュラムの作成など、子どもの発達や学びの連続性を考慮しながら体制を構築してきました。

しかしながら、交流が一過性のものにとどまり、資質や能力をつなぐことができていなかつたり、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿が到達目標と誤解され、連携の手掛かりとして十分機能していなかつたりという課題が出てきています。また、スタートカリキュラムとアプローチカリキュラムが園と学校ぞれぞれで策定され、理念が共通していないことも課題となっています。

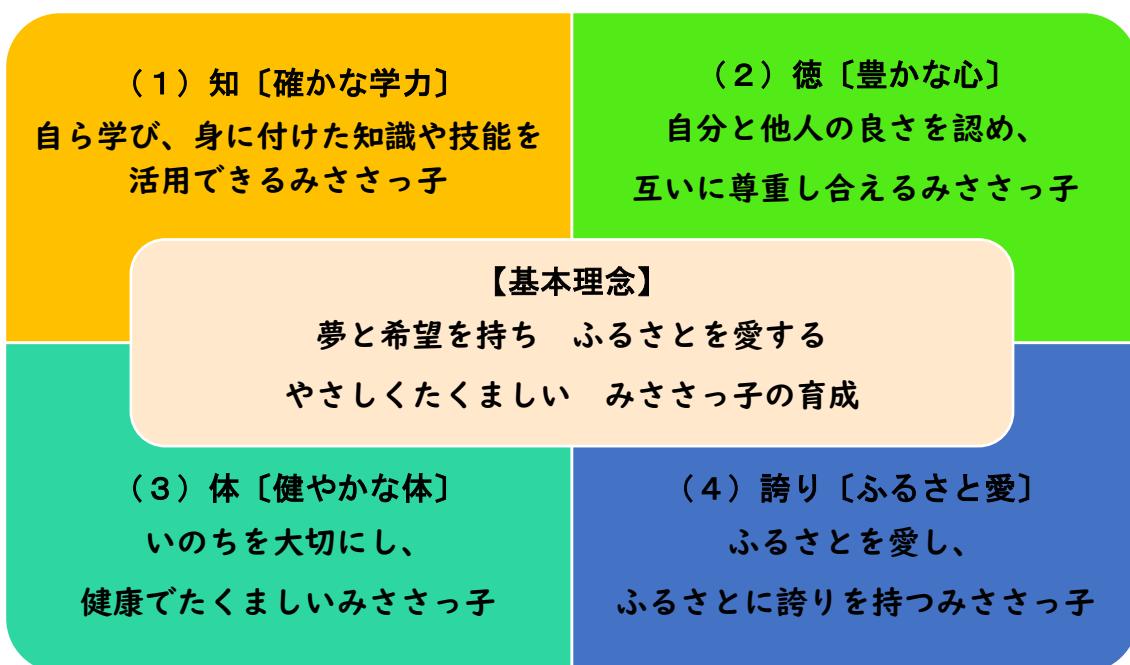
本町の抱えるこうした課題は、令和3年7月より審議が行われている中央教育審議会初等中等教育分科会「幼児教育と小学校教育の架け橋特別委員会」においても全国的な課題であると示されており、園から小学校への円滑な連携と18歳までを見据えた学びの連続性への配慮が必要であるとまとめています。

作成済のスタートカリキュラムとアプローチカリキュラムをもとにしながら、小中連携の入り口となる「架け橋期（5歳児から小学校1年生の2年間）」を一体的に捉えたカリキュラムの開発についても今後進めていく必要があると考えています。



III. 三朝町における小中連携教育

みささっ子教育ビジョンに掲げる基本理念及び目指す子ども像は次のとおりです。



基本理念を実現するための4つの柱について、それぞれ基本目標を掲げ、その過程で必要となる学校の取組を具体的な施策として推進していきます。

(1) 知 [確かな学力] 自ら学び、身に付けた知識や技能を活用できるみささっ子	
具体的な施策	<ul style="list-style-type: none">👉 「みささっ子スタンダード」<ul style="list-style-type: none">・小中9年間で一貫した指導スタイルの確立・教職員の共通認識のもと授業実施・小学校から中学校、さらに高校進学などを見据えた滑らかな接続👉 9年間を見通した教育課程の編成<ul style="list-style-type: none">・中学校卒業時の姿を全職員が具体的にイメージ👉 教職員相互交流<ul style="list-style-type: none">・授業交流の実施・計画的な合同研修の実施 ⇒ I C T活用教育研修、特別支援教育担当者研修など・中学校教員による乗り入れ授業 ⇒小学校6年生対象👉 I C T活用教育<ul style="list-style-type: none">・I C Tを介した深い学びの実現（I C T活用教育推進地域）

	<ul style="list-style-type: none"> ・ＩＣＴ活用カリキュラム（令和2年度作成）の見直し ・動画作成による取組の外部発信 小学校 ⇒ 多賀町（学校間交流） 中学校 ⇒ 台湾、フランス、東京など（修学旅行の活用） <p>👉英語教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際理解教育（フランス・台湾） ・M E S P（みささイングリッシュシュワープログラム）の推進 ・プログラム（令和3年度作成）の見直し ・英語を活用した児童生徒間交流の実施
--	---

(2) 徳【豊かな心】 自分と他人の良さを認め、互いに尊重し合えるみささっ子	
具体的な施策	<p>👉道徳教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・系統性のある道徳教育 ・「考え、議論する道徳」の実現 <p>👉人権教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・効果的な教材活動の研究実践と教材配置の検討 ・9年間を見通した育てたい資質・能力の配列 ・相互授業参観 ⇒人権教育参観日の活用 <p>👉主権者教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域課題に目を向ける学習の展開 ・「三朝町の未来を語る会」の実施 ⇒中学校3年生対象 <p>👉特別支援教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就学指導に係る接続プログラム ・特別支援教育支援員の十分な配置と研修の実施 ・移行支援会議の実施 ・通級指導教室の利活用 ・通級指導担当者連絡会の開催（月1回程度） <p>👉心の教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動の推進（町行事での協力要請） ・文化、芸術体験 ・読み聞かせ交流の実施 ⇒中学校図書委員会によるブックトーク動画の作成 <p>👉学校図書館教育</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館図書標準の100%達成 ・小中学校担当者会の実施（月1回） ⇒県立図書館との連携
--	---

(3) 体【健やかな体】

いのちを大切にし、健康でたくましいみさっ子

具体的な施策	<p>👉 児童生徒の体力向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・継続した体力づくり活動 ・部活動及び校外スポーツクラブ活動の推進 ・学校保健委員会の開催 <p>👉 健康教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いのちを大切にする教育機会の提供（助産師などの話） ・基本的な生活習慣の確立 ⇒早寝早起き、朝ごはんの習慣化 ⇒スマホやゲーム利用のルールづくり ・「三朝町子育て12か条」の啓発 <p>👉 食育推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地産地消に特化した給食の提供 ・全国学校給食週間における啓発活動 <p>👉 学校危機管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中合同避難訓練の実施 ・児童生徒の引き渡し訓練の実施（隔年で実施） ⇒小中合同避難訓練と同日で実施 ・通学路合同点検（年1回） ・感染症予防

(4) 誇り【ふるさと愛】

ふるさとを愛し、ふるさとに誇りをもつみさっ子

具体的な施策	<p>👉 特色ある総合的な学習の時間の充実（ふるさとキャリア教育）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中一貫した学習計画（令和元年度作成）の見直し ・地域題材に学ぶ（地域学校協働本部の活用） ・先輩から学ぶ ・職場体験の実施（中学校2年） ・三徳山登山（中学校1年） ・修学旅行（小学校6年、中学校3年） <p>👉 交流体験</p>

	<ul style="list-style-type: none">・国際交流活動（フランス・台湾）・滋賀県多賀町、京都府城陽市との交流・リモート交流の積極的活用 <p>👉 教育コミュニティづくり</p> <ul style="list-style-type: none">・コミュニティ・スクールの導入（令和4年度）・人材バンクの蓄積 <p>👉 教職員対象ふるさと研修</p> <ul style="list-style-type: none">・新任教職員向け研修（8月）の実施・新規採用職員向け研修（8月）の実施
--	---

知

確かな学力の育成



【キーワード】
 学びの連続性 カリキュラム・マネジメント
 ICT活用教育 みささっ子スタンダード
 英語教育の推進 ALT配置
 みささイングリッシュシャワープログラム

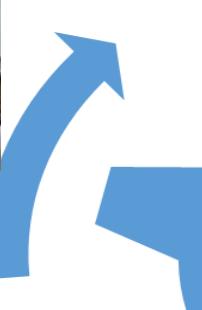
【基本的方向】

- ① 基礎的・基本的な知識や技能が確実に身に付くよう、一人ひとりの能力に応じたきめ細やかな学習指導を行い、主体的に学ぶ意欲・態度を育んで学力向上を図ります。
- ② 必要な知識・技能の習得につながる教育を推進し、教科内容の理解を促進します。
- ③ 特別な支援が必要な子ども一人ひとりの状況に応じた教育的支援を計画的に進めます。
- ④ 各教科・各学年相互の関連を図り、一人ひとりの発達や理解に応じた系統性・発展的な教育を行うため、小中学校間の情報交換及び連携をさらに推進します。



小1から外国語活動を実施し、英語への慣れ親しみを促す。

（写真）



ICT教育

▷ GIGAスクール構想推進

9年間を見通したICT活用カリキュラムに基づき、個別最適な学びを児童生徒に提供するとともに、学力向上につなげる。また、動画作成による外部発信で町のPR活動に資する。



令和3年度は、ICT活用に係る職員研修を小中で月2回実施し、指導技術の向上を図った。

（写真）

（写真）

英語教育

▷ MESPの推進

令和3年度に作成した英語教育プログラムに基づき、幼児期から中学校までを見通した英語教育を実施する。また、フランスや台湾との交流による国際理解教育を推進する。

令和3年度全国学力・学習状況調査(正答率%)

	三朝小	全国	三朝中	全国
算数	72.0	70.2		
数学			63.0	57.2
国語	65.0	64.7	68.0	64.6

小中学校とも全国平均より高い結果であったが、算数・数学、国語とも、課題となる領域は小中学校で共通していた。児童生徒の課題を共有し、一貫した指導を行うことが本町の今後の取組となる。また、令和元年度実施の同調査では、本町中学生の英語の正答率は全国より高く、保小中のつながりを見据えた英語プログラムの実施や国際交流により、高い関心を持って学習に取り組む生徒の姿がうかがえる。



（写真）

合同職員研修及び授業研究会の相互交流を実施することで、町内1小1中の強みを生かし、教職員の連携と児童生徒理解が深まることが期待される。また、ICT活用教育と英語教育については、令和3年度に9年間を見通したカリキュラムを作成したことで、育てたい児童生徒の姿が具体的となり、発達段階に応じて身に付けさせたい知識及び技能の確実な定着につながった。

徳

豊かな心の醸成



【キーワード】
特別支援教育の充実 移行支援会議
切れ目ない支援 道徳教育の充実
教育相談活動 不登校対応 図書館の充実
問題行動の未然防止と早期対応

【基本的方向】

- ① 子どもたちが自分の良さを知るとともに、他人の痛みや悲しみを理解できる優しさ、協調性などを育むことができる環境づくりを目指します。
- ② 不登校児童生徒を含めた児童生徒の悩みに対する相談体制を充実します。
- ③ 文化・芸術に触れ、様々な活動を主体的に経験する機会の充実を図り、情報教育を推進します。
- ④ 読書の面白さ、大切さを児童生徒に伝えられる環境づくりを推進します。

取組1 切れ目のない一人ひとりに応じた特別支援教育

切れ目 のない

- ・就学指導に係る連携
- ・移行支援会議の開催
- ・通級指導担当者会の実施
- ・小中特支在籍児童生徒の交流や体験の実施

一人ひとり のニーズに 合った

- ・特別支援教育支援員の十分な配置
- ・小中園合同特別支援教育担当者研修会の実施
- ・児童生徒に必要な支援を検討するための外部機関との連携
- ・児童生徒保護者、教職員間の見学

「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」、「引継シート(三朝町版)」等の活用による児童生徒理解や自立と社会参加を目指す連続性を持たせた指導をする。各様式については、保小中と統一したものとし、切れ目のない支援とする。

担当者会 情報交換 共通理解

町内の担当者が合同に研修することで、三朝町の児童生徒の連続した成長を共通理解しながら、専門性を高め、個に応じたより良い支援の在り方を研修する。また、小中に設置している通級指導教室では、在籍児童生徒の状況や指導方法を共有・検討するための担当者会を行う。

就学前後の情報交換や共通理解を綿密に行うことで、小学校における指導の経過を共有し、中学校教職員の、生徒の特性や障害の程度に関する理解につなげ、一人ひとりに応じた指導法の向上に今後も努めていきたい。

取組2 主権者教育 ～三朝町の未来を語る会～

ねらい：中学3年生に三朝町行政や三朝町教育行政の現状及び将来構想について理解と関心を深めてもらうとともに、中学生の立場から三朝町に対しての意見や要望等を聞いて、豊かな未来を築くために自分たちで実現可能な解決策を考える。

役場担当課の職員の助言を参考にしながら、グループの意見をまとめる。全体発表に備えて、プレゼンの準備を行う。



町長、教育長、役場職員の前でプレゼンすることで、三朝町の将来を担う人材としての自覚を深めることにつながった。生徒が模造紙にまとめた提案は、町文化ホールに掲示し、取組内容について広く周知を図った。

自分たちが暮らす三朝町の現状を知り、良さや課題を考えることで、三朝町をよくするためにできることを考えるきっかけになった。さらに、町行政に携わる役場職員と意見交換することで、自分たちも住民の一人として、地域に貢献したいという意識が高まる取り組みとなった。一人ひとりの社会的、職業的自立を促すふるさとキャリア教育の観点も踏まえた活動であり、今後も継続開催していくこととする。

取組3 学校図書館教育 ～各機関との連携～

小中学校担当者、町立図書館職員、県立図書館職員による担当者会を定期的に実施し、学校図書館の充実を図るとともに、新校舎建築後の魅力ある学校図書館づくりを進める。



体

健やかな体の育成



【キーワード】

体力向上 体育的行事の充実
部活動指導員及び外部指導者の派遣
地産地消 栄養指導 いのちの教育
学校保健委員会 基本的な生活習慣

【基本的方向】

- ① 子どもの発達段階を考慮しながら、遊び時間や体育の時間をはじめとする様々な機会を利用して、体力及び運動能力の向上と運動に親しむ態度の育成を図ります。
- ② 食育や健康教育について、家庭や地域と連携し、日常生活の中で継続的に行います。



体力向上の取組

- △新体力テストから明らかとなった運動課題の克服に取り組む。(柔軟性・瞬発力)
- △中学校体育科教員による小学校への乗り入れ授業(専門的教科指導)
- △学校保健委員会の開催 ⇒ 健康課題を明らかにして保護者啓発へ
- △部活動及び校外スポーツ活動の推進(部活動指導員、外部指導者の活用)



健康教育

- △いのちを大切にする学習の実施(ゲスト・ティーチャーとして助産師、保健師等)
- △三朝町子育て12か条の啓発(令和4年度より実施の取組)
 - ・保育園と小中が一体となって、家庭の教育力を高め、基本的生活習慣の確立と規範意識の定着を目指す。PTA総会等を活用して説明を行い、広く周知する。
- △小中養護教諭担当者会の実施(随時)



食育推進

- △食に関する知識と意識を高め、心身の健康を増進する健全な食生活につなげる。
- ・地産地消による給食の提供(地産地消率:令和2年度95%)
- △全国学校給食週間の活用
- ・町長等との交流給食、給食標語コンクール、特別メニュー給食
- △栄養教諭による食に関する指導の計画的な実施



学校危機管理

自然災害、感染症等、様々な事案に迅速な対応が求められることから、学校危機管理においても、小中の教職員が連携する必要がある。

- △小中合同避難訓練の実施
- ・町関係機関と連携した避難訓練や避難所設営訓練の実施
- △引き渡し訓練の実施
- △通学路合同点検の実施(年1回)
- ・交通安全プログラムに従って学校、地域、行政、保護者が実施する。
- △職員研修の実施



【三朝中学校】

1年間に2度、生徒自身による手作り弁当の日を設定している。栄養6群や地産地消、彩り等、学年ごとに作る弁当のテーマがあり、献立作成や調理、盛り付けまで生徒自身で行うことで、食への関心を高める取組となっている。

スマホやタブレット端末の普及で、メディア依存となる児童生徒が増えたり、運動する子としない子の二極化傾向が顕著になつたりと本町児童生徒の抱える課題は多い。子育て12か条を作成し、保護者に啓発するとともに、地域への協力を依頼し、健やかな心と体の育成を目指している。健康な体は、学習や運動を行う土台となるものであり、スマホやタブレット端末利用ルールについても、小中の接続を意識しながら検討していくこととする。

誇り

ふるさと愛の醸成



【キーワード】

特色ある総合的な学習の時間
地域題材の活用 ふるさとキャリア教育
国際交流体験 国内姉妹都市交流
コミュニティ・スクール
日本遺産の活用

【基本的方向】

- ① 地域の魅力ある資源を活用し、本町の歴史や産業、文化への理解を深めます。
- ② 地域の環境や災害についての学びを通して、ふるさとを守るという地域防災意識を高めます。
- ③ ふるさと三朝町に誇りと愛着を持ち、その発展に貢献しようとする子どもを育てる教育を推進します。

取組1 ふるさとキャリア教育

④ 9年間を見通したキャリア・パスポートの作成

⑤ 地域題材の活用

⑥ 先輩に学ぶ、トライワークの実施

地域に学ぶことで、自分たちが暮らす三朝の良さに気づき、その発展に貢献しようとする気持ちを高めることができる。また、多くの大人の専門性や地域の力を生かすことで、児童生徒の学びや体験活動が充実し、生きる力につながる学習が期待できる。キャリア・パスポートは、毎年度見直しを行い、次年度の活動の充実を図る。



三朝町小・中学校 キャリア・パスポート構成

	1ページ	2ページ	3ページ	4ページ	5ページ	6ページ	7ページ	8ページ	9ページ	10ページ
	共通	教科外活動	教科学習 教科外活動	学校外の活動	共通(例)	教科学習 教科外活動		教科外活動	共通	
学年	学活(3)	行事(学校)	行事(学生)	地域(個人)	地域(学校)	各教科等	各学年裁量	学活(3)	学活(3)	
小1	1年生になって *夢・目標	運動会 秋の音楽会 三朝小まつり 縦割り班集会	さあみんなで かけよう	等長子に期 ど参加休 も加業 エシヤ エスコ テと祝 イに日 バツを ルい利 て用 サ記し 入りす地 ボルの ンまつ ティア スクリ 等一 アス	保二小 ブル交流 (体)	たのしさ 見つけたよ ふゆ(生)	ひろがれ えがお(生)	3学期をふりか えろう	もうすぐ2年生	
小2	2年生になって *夢・目標	運動会 秋の音楽会 三朝小まつり 縦割り班集会	レッソゴー 町たんけん	おいしい 野菜を育てよう (生)	おいしく 野菜を育てよう (生)	もっと行きたいな 町たんけん(生)	これまでのわたし これからわたし (生)	3学期をふりか えろう	もうすぐ3年生	
小3	3年生になって *夢・目標	運動会 秋の音楽会 三朝小まつり 縦割り班集会	三朝の名人に 会いに行こう	三朝温泉を 紹介しよう (総合)	店で働く人(社)	のこしたいもの つたえたいもの (社)	3学期をふりか えろう	もうすぐ4年生		
小4	4年生になって *夢・目標	運動会 秋の音楽会 三朝小まつり 縦割り班集会	ごみのしりと 利用	福祉施設との 交流 (総合)	パリアフリー 見つけ (総合)	大人に近づく 身体(学)	3学期をふりか えろう	もうすぐ5年生		
小5	5年生になって *夢・目標	運動会 秋の音楽会 三朝小まつり 縦割り班集会	船上山 宿泊学習	米をつくろう (総合)	環境を守る 取り組み (総合)	保育園との 交流 (総合)	3学期をふりか えろう	もうすぐ6年生		
小6	6年生になって *夢・目標	運動会 秋の音楽会 三朝小まつり 縦割り班集会	修学旅行	住みよい三朝に する ための方策を考えよ (総合)	将来の夢と 向き合おう (総合)	成長した わたしたち (家)	3学期をふりか えろう	【共通】6年間を振り返って		
中1	1年生になって *夢・目標	秋季大運動会	大山登山 (宿泊)	ゲストイヤーチャー から 学ぶ(総合)	身近な人の 職業調べ (総合)	校内文化祭	3学期をふりか えろう	もうすぐ2年生		
中2	2年生になって *夢・目標	秋季大運動会	トライワーク みまさ (職場体験)	三朝の未来を 語る会 (総合)	先輩に学ぶ (総合)	校内文化祭	3学期をふりか えろう	もうすぐ3年生		
中3	3年生になって *夢・目標	秋季大運動会	修学旅行	企業訪問	進路計画の 修正と検討 (学)	校内文化祭	3学期をふりか えろう	【共通】9年間を振り返って		

取組2 国際交流体験及び国内姉妹都市交流

⑦ フランス交流、台湾交流

国外姉妹都市との相互派遣やリモートを活用した交流により、異文化への理解を深めるとともに、豊かな国際感覚を養うこと目的として実施する。コロナ禍で相互派遣が難しくなった令和2年度からは、リモート接続を積極的に取り入れ、交流を継続しているところである。

⑧ 国内姉妹都市交流(滋賀県多賀町)

令和4年度より、滋賀県多賀町との交流をスタートする。初年度は、教員による相互派遣を行い、児童による交流の在り方を協議していくこととする。



フランス訪問及び台湾訪問に向けての事前学習では、町国際交流員や県国際交流員、国際交流財団コーディネーター等の支援を受けながら、その国や地域への理解を深めたり、語学学習を行ったりしながら準備を進めいく。



日本遺産として認定されている世界屈指のラドン泉である三朝温泉と国宝投入堂を有する三徳山は、町を代表する地域資源である。これらを中心に地域の魅力ある資源をキャリアパスポートとして配置し、切れ目なく実践することで「ふるさとへの誇りと愛着」を育む。

なお、令和4年度からはコミュニティ・スクールの導入によって地域の力が加わり、学校・地域が連携し、体験活動の充実を図る。

また、国内外での交流体験活動を通じて、グローバルな視点で物事に取り組む生徒の育成をすることで、ふるさとを想う気持ちを深める。



日本遺産及び町内文化遺産を利用した「ふるさとキャリア教育」の実施計画

ねらい	日本遺産である三朝温泉及び国宝“投入堂”を有する三徳山等、町内の文化財や資源についての理解を深め、大切に受け継がれてきたふるさとの人々の思いを知ることで、ふるさと「三朝」に夢と誇りを持った将来の担い手の育成につなげる。										
育成を目指す 資質・能力	<ul style="list-style-type: none"> 自ら課題を見つけ、自ら学び、考える児童生徒 人を思いやる心、人権を尊重する心をもち、人とつながり、協働することができる児童生徒 ふるさとを愛し、ふるさとの良さを守りながら、新しいものを創造する児童生徒 										
↓	知識・技能 <ul style="list-style-type: none"> ①出会い（ひと・こと・もの）からの学び ②情報活用スキル 										
資質・能力の基準	<table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> 思考力 判断力 表現力 </td><td>③多角的・多面的に考え、対話し、よりよい答えを導く力</td> </tr> <tr> <td></td><td>④新しく創造し、表現する力</td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;"> 学びに向かう 人間性 </td><td> ⑤自ら課題を見つけ、自ら学び、考え続ける力 ⑥人とつながり、協働しようとする力 ⑦自己を見つめ、生き方を考えようとする力 </td> </tr> </table>					思考力 判断力 表現力	③多角的・多面的に考え、対話し、よりよい答えを導く力		④新しく創造し、表現する力	学びに向かう 人間性	⑤自ら課題を見つけ、自ら学び、考え続ける力 ⑥人とつながり、協働しようとする力 ⑦自己を見つめ、生き方を考えようとする力
思考力 判断力 表現力	③多角的・多面的に考え、対話し、よりよい答えを導く力										
	④新しく創造し、表現する力										
学びに向かう 人間性	⑤自ら課題を見つけ、自ら学び、考え続ける力 ⑥人とつながり、協働しようとする力 ⑦自己を見つめ、生き方を考えようとする力										
出会う・気づく	学年	題材名	時間数	目標及び身に付けたい資質・能力	指導の重点						
	小1	三徳山にまつわるお話 ・3枚のはなびら ・役の行者（投入堂） ・三徳山と大山の背くらべ	2	・三徳山に伝わる伝説や民話を聞いて、自分たちの住んでいる三朝町に関心を持つことができる。 【資質・能力①】	<ul style="list-style-type: none"> ○三徳山や三朝温泉など、町内の観光資源や文化財等について、その保存や活用に尽力している先人の努力や協力について知ることができるようする。 						
	小2	おいしい三徳名物 ・三徳とうふ ・とちもち	2	・自分たちが日ごろ食べている三徳山名物がどのようにして作られているか知ることで地元の産物に興味と誇りを持つことができる。 【資質・能力①】	<ul style="list-style-type: none"> ○ゲスト・ティーチャーとしてお話グループの方を招いて読み聞かせを依頼したり、観光協会や旅館組合、三佛寺住職等から直接話を聞いたり出会いを演出することで、興味や関心を持ちながら学習に取り組むことができるようする。 						
	小3	三朝温泉 ・白狼伝説 ・三朝温泉の歴史 ・温泉体験 ・三朝温泉街	2	・三朝温泉について、見学したり体験したりしたことをまとめて発表することができる。 ・三朝温泉の良さやそこに携わる人々の工夫や努力を理解することができる。 【資質・能力①、③、⑤】	<ul style="list-style-type: none"> ○出会いを通して、より深く学んでいきたい事柄を見つけることができるよう支援する。 						
深める	小4	三徳山投入堂 ・国宝「投入堂」 ・文殊堂 ・地蔵堂 ・納経堂	2	・鳥取県唯一の国宝建造物である投入堂等、三徳山の文化財について知り、その保存や活用に取り組んでいる人々の思いや願いを大切に受け継いでいくことができる。 【資質・能力①、⑥】							
	小5	三朝の祭り ・花湯祭り（陣所） ・御幸行列 ・キュリー祭 ・三朝に伝わる芸能	2	・三朝に伝わる祭りや芸能について調べることで、伝統・文化の素晴らしさやそれを守る人々の工夫が分かり、自ら進んで地域行事に参画しようとする気持ちをも持つことができる。 【資質・能力①、⑥】	<ul style="list-style-type: none"> ○三徳山や三朝温泉についての歴史や伝統文化、日本遺産としての魅力についての探求的な学習に主体的・協同的に取り組むとともに、自ら進んで地域社会に参画しようとする態度を育てる。 						
	小6	日本遺産PR① ・三徳山三佛寺 ・三徳山に関する文化財 ・三朝温泉	4	・これまでの学習から、日本遺産を広く周知し、活用していくために自分たちにできることを考え、関係者に向けた提案をすることができる。 【資質・能力②、④、⑤、⑦】	<ul style="list-style-type: none"> ○4年生までに学習したこと適時振り返りながら、歴史や伝統を受け継いできた人に共通する思いや願いに気づくことができるようする。 						
広げる	中1	三徳山登山 ・六根清浄と六感治癒 ・三徳山あれこれ ・三朝温泉の効能	6	・三徳山登山と三朝温泉入浴を体験することで、日本遺産の目玉ともいえる「六根清浄と六感治癒」を実感し、その良さを広める方法を考えることができる。 【資質・能力①、⑤、⑥】							
	中2	日本遺産PR② ・三朝PR動画の作成	6	・国宝「投入堂」を有する日本遺産の三徳山と三朝温泉の良さを国内外に周知するための方法を考えて動画を作成し自分たちのアイデアを生かして、発信することができる。 【資質・能力②、④、⑤、⑥】	<ul style="list-style-type: none"> ○日本遺産の三徳山、三朝温泉を有するわが町「三朝」の良さを国内外に広めるための方法を考えるとともに、三朝町に暮らす一人として自分たちにできることを考えることができるようする。 						
	中3	三朝町の未来を語る会 ・事前学習（町長説明） ・三朝町の未来を語る会 ・事後学習（町民への広報）	4	・自分たちの住んでいる町、ふるさと三朝の人、自然、社会の現在の実情の中から問い合わせを見出し、その解決に向けて考えたことをまとめて、分かりやすく表現することができる。 【資質・能力③、④、⑦】							

三朝小・中学校における情報活用能力カリキュラム

情報活用能力は「情報及び情報手段を主体的に選択し活用していくための個人の基礎的な資質」と定義され、「情報活用の実践力」「情報の科学的理解」「情報社会に参画する態度」の3観点に整理されます。これらは相互に関係し合っており、バランスよく育成することが必要です。学習指導要領では情報教育の充実が図られ、児童生徒の発達の段階に応じた情報活用能力を育成することの重要性が示されました。情報活用能力は、社会の情報化が進展する中で児童生徒に必要となる新たな資質であり、その育成が求められています。



- 「初等中等教育における教育の情報化に関する検討会」(平成18年10月)
⇒「初等中等教育の情報教育に係る学習活動の具体的展開について」において、情報活用能力の3観点は「8要素」に整理されることが望ましいとされる。
- 「教育の情報化に関する手引」(平成22年10月)
⇒整理した情報教育の目標の3観点の定義に基づく8要素に分類整理される。

3観点	小　学　校						中　学　校		
	1学年	2学年	3学年	4学年	5学年	6学年	1学年	2学年	3学年
情報活用の実践力	課題や目的に応じた情報手段の適切な活用 必要な情報の主目的な収集・判断・表現・処理・創造 受け手の状況などを踏まえた発信・伝達	基本操作(起動・終了等) 図書資料から集める(情報の整理) リンク集を使って検索する	基本操作(保存等のファイル操作) Webで集める(情報の選択) 検索エンジンを活用する	表現手段に写真や動画を活用する	・複数キーワードで検索する ・様々な方法で情報を集める(分類・整理)	基本的操作(ファイル整理等)	目的に応じたソフトウェア(アプリ)の利用ができる ・図書資料やWebを活用し、情報を取捨選択する ・具体的で詳細な情報を得る	・動画編集 クラスプレゼンテーション	・PR動画作成 「ロバ」やアバコ
情報の科学的な理解	情報活用の基礎となる 情報手段の特性の理解 情報を適切に扱ったり、自らの情報活用を評価・改善するための基礎的な理論や方法の理解	PC、タブレットの各部の名称と役割がわかる データをまとめたり、並べたりできる 自分の発表の振り返り	表現手段に写真や動画を活用する	各部の名称と役割がわかる 周辺機器や記録メディアの利用	情報収集や表現方法の振り返り	情報活用の仕方を振り返り、改善の仕方を考える 単純な命令を組み合わせて、簡単なプログラムを作成することができる(プログラミング)	・基本ソフトウェア(OS)やアプリケーションの機能がわかる ・基本ソフトウェア(OS)やアプリケーションの機能がわかる 情報活用の仕方に、改善の方法を考える	・卒業アルバム制作 人権劇撮影	・卒業アルバム制作 人権劇撮影
情報社会に参画する態度	社会生活の中で情報や情報技術が果たしている役割や及ぼしている影響の理解 情報モラルの必要性や情報に対する責任 望ましい情報社会の創造に参画しようとする態度	相手の気持ちを考えて行動する 人が作ったものを大切にする 公共のものを大切にする	適切な表現で情報を発信する 著作権を知り、個人の権利に配慮する ネットワークのよさを知り、協力して使う	・個人情報について知る 人が作ったものを大切にする 公共のものを大切にする	・適切な表現で情報を発信する ・IDやパスワードの重要性を知る 著作権を知り、個人のプライバシーに配慮する ネットワークが公共のものであることを理解する	・責任をもって情報発信する ・ウイルス対策やフィルタリングの重要性がわかる 肖像権を知り、個人のプライバシーに配慮する ネットワーク上のコミュニケーションによる表現等	・情報発信による社会の影響や自分の責任について考え、行動する ・SNS等での情報の送受信に伴い発生する問題に適切に行動する 人格権や肖像権等、個人の権利を尊重する ネットワーク上のコミュニケーションによる表現等	※参考「情報活用能力の体系表(令和元年度)」IE-school	※参考「情報活用能力の体系表(令和元年度)」IE-school

下支えするスキル

各教科との関連	国語	社会	算数・数学	理科	音楽	図工・技術・技術	家庭科	体育科	英語	総合的な学習
	○筋道を立てて考える力 ○情報活用に関する知識や技能	○社会的事象に関する情報を適切に集め、まとめる技能 ○情報多面的・多角的に精査し構成化する力 ○文や文章を整える力 ○情報を組織・操作する力 ○話や文章を構成する力等	○社会的現象に対する基本的な概念 ○自然現象に対する基本的な概念 ○日常の事象を数理的に捉え、筋道立てて考察する力 ○事象を比較、関係付けて多面的に考え出来る力 ○数学的に考える力や数理的な処理のよさに気付く力 ○根拠に基づき判断し表現する力 ○社会に見られる課題について様々な発想や構想、実践を評価、改善し表現する態度等	○自分で音楽表現をしたり友達と一緒に音楽表現をしたり自分の思いや意図を音楽で表現する力 ○音楽に関する知識や技能を活用して音楽表現を工夫し、どのように表現するか等	○音楽表現を通して表現する力 ○音楽表現を通して表現する力 ○音楽表現を通して表現する力 ○音楽表現を通して表現する力	○実習や観察、実験、調査、交流活動を通じて、考察したことなどを表現する力 ○課題解決を目的として考へる力 ○相手や目的、意図に応じて分かりやすく表現する力 ○自己の課題を見付け、その解決に向け思考・判断したことなどを表現する力等	○課題解決を目的として考へる力 ○相手や目的、意図に応じて分かりやすく表現する力 ○音楽を語彙や基本的な表現を読んだり、語彙を意識しながら書いたりして表現する力等			

授業デザイン力・実践力等、教職員の活用指導力の向上 ⇒ ICT活用教育推進地域事業 三朝町教育委員会ICT活用研修

共通の学習用ツール(Google Gsuite for Education)の活用による一貫した取組 学習ツール(ロイロノート)の活用による思考プログラムの育成

※参考「ICT活用ハンドブック」(令和2年度) 鳥取県教育センター

※参考「ICT活用ハンドブック」(令和2年度) 鳥取県教育センター

MISASA English Shower Program

単元計画におけるプログラムの指導重点項目

		単元名(ユニット)等			
園	絵画等	【コミュニケーションを楽しむ】 ・感情を表す言葉 ・happy,Angry,sad等 ・英語絵本の読み聞かせ	【表現を楽しむ】 ・Hello Song ・英語音声に合わせて体を動かすことを楽しむ。 ・生き物の言い方に慣れ親しむ。	【表現を楽しむ】 ・Hello Song ・英語音声に合わせて体を動かすことを楽しむ。 ・生き物の言い方に慣れ親しむ。	【コミュニケーションを楽しむ】 ・好きなものを尋ねたりする。 ・果物の言い方に慣れ親しむ。 ・天気の言い表し方に慣れ親しむ。
	1年	【Hello!】 ・挨拶の仕方 ・Simon Says Game ・英語絵本の読み聞かせ	【コミュニケーションを楽しむ】 ・指導者や友だちとどうぞ ・天気の言い表し方に慣れ親しむ。	【表現を楽しむ】 ・What your name?の表現を使ってインタビューを行う。	【コミュニケーションを楽しむ】 ・好きなものを尋ねたりする。 ・形の言い表し方に慣れ親しむ。 ・野菜の言い表し方に慣れ親しむ。
	2年	【Hello!】 ・挨拶や名前の言い方に慣れ親しむ。 ・挨拶をし合う。	【How many?】 ・表現やジェスチャーを工夫して接觸をします。 ・感情や状態の表現に慣れ親しむ。	【I like blue.】 ・色の言い方に慣れ親しむ。 ・20までの数の言い方に慣れ親しむ。 ・数を尋ねたり答える。	【表現を楽しむ】 ・色を尋ねたり答える。 ・形の言い表し方に慣れ親しむ。 ・乗り物の言い方に慣れ親しむ。
	3年	【Hello world!】 ・様々な接觸の言い方に慣れ親しむ。 ・友達と接觸をし、自分の好み等を伝え合う。	【I like Mondays.】 ・曜日の言い方に慣れ親しむ。 ・遊びや天気の言い方に慣れ親しむ。	【What do you like?】 ・物の言い方に慣れ親しむ。 ・何か好きな色を尋ねたり答える。	【表現を楽しむ】 ・車の部位の言い方に慣れ親しむ。
	4年	【自己紹介】 ・既習事項を伝える。 ・友達の自己紹介を聞き、詳しく知りたいことを尋ねる。	【My birthday is May 10th.】 ・月や行事の言い方に慣れ親しむ。 ・自分の誕生日を作成し伝える。	【What time is it?】 ・時刻や日課の言い方に慣れ親しむ。 ・好きな時間に尋ねたり答える。	【表現を楽しむ】 ・色を尋ねたり答える。
	5年	【自己紹介】 ・既習事項を伝えながら自己紹介する。 ・食べ物、動物、スポーツ等	【I study math on Monday.】 ・教科名や身の回りの物の言い方に慣れ親しむ。 ・自分の時間割を作成し伝える。	【Do you have a pen?】 ・文房具等の学校で使う物の言い方に慣れ親しむ。	【表現を楽しむ】 ・自分の好みを伝え合う。
	6年	【自己紹介】 ・既習事項を使って自己紹介をする。 ・詳しく知りたいことを尋ねる。	【My birthday is May 10th.】 ・月や行事の言い方に慣れ親しむ。 ・自分の誕生日を作成し伝える。	【What's it?】 ・物の名前を尋ねたり答える。	【表現を楽しむ】 ・色を尋ねたり答える。
	7年	【自己紹介】 ・既習事項を伝える。 ・友達の自己紹介を聞き、詳しく知りたいことを尋ねる。	【I sometimes walk the dog.】 ・日課や頻度の言い表し方に慣れ親しむ。	【She can sing well.】 ・あることにについて、できるかできないかを尋ねたり答える。	【表現を楽しむ】 ・歌詞を歌う。
	8年	【自己紹介】 ・既習事項を伝える。 ・友達の自己紹介を聞き、詳しく知りたいことを尋ねる。	【I want a big park in our town.】 ・地域にあつたらしいと思うものについて尋ねたり答える。	【I want to go to France.】 ・位置の言い表し方に慣れ親しむ。	【表現を楽しむ】 ・歌詞を歌う。
	9年	【自己紹介】 ・既習事項を伝える。 ・友達の自己紹介を聞き、詳しく知りたいことを尋ねる。	【I study to Japan.】 ・外国人に物や場所を紹介する内容を考え、相手が理解できるように伝える。	【I want to last weekend?】 ・夏休みの思い出を整理し、相手が理解できるように伝える。	【表現を楽しむ】 ・歌詞を歌う。
小学校	1年	【Get Ready】 ・小学生の復習 ・音声と文字の関係 ・辞書の使い方	【友だちを作ろう】 ・be動詞(肯定/否定/疑問) ・場所の尋ね方	【I-Bの生徒たち】 ・一般動詞(肯定/否定/疑問) ・命令文、否定命令文 ・時刻(時間)の尋ね方	【Let's Enjoy Japanese Culture.】 ・This('That/He/She)'s ~. ・Who~?
	2年	【Start of a New School year.】 ・予定や計画を伝える。 ・未来表現	【Leave Only Footprints.】 ・義務や命令、必要性を伝える。 ・接続詞when/if	【High-Tech nature.】 ・比較級 ・最高級as～as	【Work Experience.】 ・行動的目的を伝える。 ・動名詞 ・不定詞 ※ハッフォーマンス活動「夢の旅行」
	3年	【Bentos Are Interesting!】 ・依頼表現 ・ask~?	【Taste of Culture.】 ・Footprints.】 ・場所の尋ね方	【Taste of Culture.】 ・比較級 ・最高級as～as	【Sign Languages,Not Just Gestures!】 ・call+人 ・make+人+形容詞 ・使役動詞 ※ハッフォーマンス活動「記者会見」
	4年	【Bentos Are Interesting!】 ・依頼表現 ・ask~?	【Good Night,Sleep Tight.】 ・問節疑問文 ・tell+人～	【A Hot Sport Today.】 ・車の言い表し方に慣れ親しむ。	【A Hope for Lasting Peace.】 ・現在完了形 ・現在完了進行形
	5年	【Bentos Are Interesting!】 ・依頼表現 ・ask~?	【A Gateway to Japan.】 ・現存完了形 ・現存完了進行形	【The Way to School.】 ・手段、方法について尋ねる。 ・howの疑問文 ※パフォーマンス活動「他者紹介」 ※6年生に紹介	【A Trip to Finland.】 ・過去にしたこと(規則動詞)を伝える。 ・過去にしたこと(不規則動詞)を伝える。 ※「写真紹介」
	6年	【Bentos Are Interesting!】 ・依頼表現 ・ask~?	【Junior Safety Patrol.】 ・三人称、単数、現在	【The year-End Events.】 ・Why~? ・Because~? 理由についてのQ & A	【Grandma Baba's Warming Ideas!】 ・過去の状態について話す。 ・be動詞の過去形 ・過去進行形 ※「パフォーマンス活動」
中学校	1年	【Leave Only Footprints.】 ・場所の尋ね方	【Leave Only Footprints.】 ・義務や命令、必要性を伝える。 ・接続詞that/must/have to	【Live Life in True Harmony.】 ・受け身の言い方で伝えたり尋ねたりする。 ・be動詞+形容詞 ・show+人+物	【A Hope for Lasting Peace.】 ・現在完了形 ・現在完了進行形
	2年	【Good Night,Sleep Tight.】 ・問節疑問文	【A Hot Sport Today.】 ・call+人 ・make+人+形容詞 ・使役動詞 ※ハッフォーマンス活動「記者会見」	【The Great Pacific Garbage Patch.】 ・関係代名詞(主格) ・who/which/that ・目的格省略 ・which/that	【Is AI a Friend or an Enemy?】 ・自己PR ※「中学校の思い出」
	3年	【Bentos Are Interesting!】 ・依頼表現 ・ask~?	【A Hot Sport Today.】 ・call+人 ・make+人+形容詞 ・使役動詞 ※ハッフォーマンス活動「記者会見」	【The Story of Chocolate.】 ・車の言い表し方に慣れ親しむ。	【中学校の思い出を残そう】 ※「中学校の思い出」